



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. **20**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成27年3月30日発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

トライアスロンさぎしま大会での学生ボランティア

三原市の佐木島で8月24日(日)に開催された、第25回トライアスロンさぎしま大会に、保健福祉学部理学療法学科3年生を中心とした学生ら58名が、選手やボランティアとして参加しました。蒸し暑い天候のなか、選手受付をはじめエイドステーションや給水、環境美化などに協力し、大会終了後の後片付けにおいても、欠かせない戦力として大いに活躍しました。各地から集まった選手や、地元佐木島の皆さんとふれあいながら、大会を大いに盛り上げました。

この大会は、平成2年に佐木島の活性化を目指して始まりました。毎年たくさんの選手やボランティアが佐木島を訪れ、トライアスロンが開催される時季は一年のうちで佐木島が最も賑わいを見せます。本学の学生ボランティアは平成20年から参加しており、学生たちの献身的な活動は、島の人々からも大変喜ばれています。25回目の節目となる今回は、個人378名、チームリレー35組の計483名が参加し、午前10時にスタートを切りました。大会が行われたコースは、スイム(水泳)1.5キロ、バイク(自転車)42キロ、ラン(長距離走)10キロで構成され、中学生から70歳代の選手が参加しました。4時間の制限時間内に457名の選手が完走しました。本学からも選手として学生・教職員等で構成された2チーム6名が競技に参加し、他の選手とともに爽やかな汗を流しました。

ボランティアを終えて、「周りを見ながら何をすればいいのか考え、積極的に行動することができるようになった」「ご高齢でも目標に向かって頑張る姿を見て、自分も目標に向かって進む決意を固めた」という感想が寄せられました。学生にとって今回のボランティア活動は、社会的にも人間的にも成長するための良い機会となったようです。



庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

学術講演会

謎の深海生命に探る宇宙生命の可能性

去る11月14日、広島大学大学院准教授 長沼 毅氏を講師に学術講演会を開催しました。長沼先生は日本のインディジョーンズとして、テレビ・ラジオをはじめ数々の講演会・トークライブ

において環境、生命、地球、宇宙などの事象について幅広くわかりやすいトークと知識で聴き手を魅了してきた



研究者です。今回の講演でも「謎の深海生命に探る宇宙生命の可能性」と題して、極限や地球外環境における多様な生命の可能性について、ご自身の経歴と宇宙開発の歴史を楽しく振り返りながら、わかりやすくゆっくりとお話を進めてくださいました。会場の大講義室では、123名もの参加者が先生の講義を固唾をのんで聴講しました。本学の学生、教職員のみならず地元のシニアの方々が真剣な眼差しで聞き入っていた姿が印象的でした。講演後の質問でシニアの方がまず発言されたことも、この講演への関心の高さを物語るものでした。長沼先生、実はかなりの変わり者（失礼な言い方ですが、とてもユーモアのある方という意味で）で、着流して学会の会場に現れたり、極地の温泉につかってみたり（もちろん露天）と、見ているだけで面白い方でした。この日も白の縁取り襟のジャケットに鮮やかな赤いバラをあしらったシャツで壇上に登場されました。宇宙人もびっくりの素敵ないでたちですが、講演でも取り上げられたように2015年からは火星移住のシミュレーション実験に7人のうちの一人として参加予定とのこと。宇宙飛行士の候補者にもあがったほどの方ですからこのミッションもきっと成功されると思います。大盛況な講演会でした。

庄原市民公開講座

「農業の活用、農業による活性—県立大のフィールドから」と題し、県立広島大学市民公開講座を、今年度も10月29日、11月7日、13日の日程で庄原市教育委員会と共催しました。本学には農業に関連する施設も多く、その紹介をかねて事業を実施しました。実際に土や生産物に触れ、加工した食品の成分を測ってみました。体を動かす講座は受講生に人気があり、今回も定員を超える応募がありました。また講座終了後、個人的に講師と話す姿



も多く見受けられました。この他、自分自身の農業に応用するとか、野菜等を購入するときの参考にするとといった意見をいただきました。

延べ56名の市民が出席され、2回以上出席された20名の方に修了証書を渡しました。

回	講座名	講師
1	県大農場施設における地域課題学習と研究(栽培分野)	生命環境学部 准教授 甲村 浩之
2	作物栄養環境の土作りを見て触れて感じて考える	生命環境学部 准教授 増田 泰三
3	加工食品と機能性評価	生命環境学部 准教授 吉野 智之

公開講座

10月2日から10月22日にかけて4回シリーズの公開講座「大人のための高校講座」を実施しました。この講座は高校の授業



になぞらえて、現代社会の問題を考えることを目的としました。受講された方々からは、「学生時代に戻った感じでとても楽しかった」や、「最近、iPS細胞、万能細胞、スマホ等々、新聞・メディアでは語られ概念的にはわかるが、体系的・理論的にはなかなか理解できない。(中略)理解する糸口になり受講してよかった」等の感想をいただきました。今後もキャンパスを越えた講座の実施を図りたいと思っています。

回	講座名	講師
1	「倫理」 いじめ問題から透けてくる幸福論	総合教育センター 准教授 大草 輝政
2	「生命」 万能細胞の過去と将来	生命環境学部 准教授 山下 泰尚
3	「情報処理」 スマートフォンを用いたひろしま観光マップによる地域活性	経営情報学部 教授 市村 匠
4	「現代社会」 ヘイトスピーチ～民族と国民の不思議な関係	地域連携センター 講師 上水流 久彦

研究紹介

ライフサイクルアセスメント(LCA)
による環境負荷削減策の検討

生命環境学部環境科学科 准教授 小林 謙介

人間活動と環境との調和が保たれた、循環型社会の形成が求められています。その実現のためには、CO₂ 排出量などの環境負荷を定量的に分析した上で、削減策を検討することが欠かせません。環境負荷を定量化する手法には、ライフサイクルアセスメント(LCA)があります。本研究室では、LCAなどを活用して、(A)製品・システムなど、様々な対象の環境負荷削減策を検討しています。更には、(B) LCAの実施に必要な、評価手法・評価に用いるデータベースの研究・開発を行っています。

(A) 様々な対象の環境負荷削減策の検討では、建築物に係る環境負荷削減策の検討を行っています。特に、主要な建築資材のひとつである木材に着目し、我が国全体のみならず、広島県など地域の視点も含めながら、ライフサイクル(森林での木材生産から木くず処理まで)におけるマテリアルフローの構築や、各工程で発生する環境負荷分析を行って、より低負荷な木材利活用のあり方を検討しています。更に、これらの研究蓄積を生かしながら、木材以外の建材の評価にも取り組んでいます。(B) LCAの評価手法・データベース開発では、LCA実施で欠かすことができないバックグラウンドデータベースについて、各データの品質評価手法と、データ品質が評価結果に及ぼす影響(精度)についての研究を進めています。

これらの研究活動を通して、循環型社会の構築に貢献できればと考えています。詳細は、<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~kensuke/>でも情報発信しております。

機能性乳酸菌の探索と応用

生命環境学部生命科学科 准教授 津田 治敏

当研究室ではプロバイオティクス機能を有する乳酸菌を探索しています。プロバイオティクスとは「ヒトや動物に投与した際に、腸内菌叢の改善効果によって宿主の健康に好影響を与える生きた一種、もしくは混合微生物」と定義されています。いわゆる生菌タイプの機能性食材であり、生菌の代表が乳酸菌で、これらを多量に含む食品がヨーグルトなどの発酵乳です。プロバイオティクスとしてよく研究されている作用には、コレステロール低下作用、抗ガン作用、免疫賦活作用、整腸作用および血圧降下作用などがあります。

プロバイオティクスの条件として、①安全性が確認されており、②胃内を生きたまま通過し、③胆汁酸に耐性を有し、④腸管内で増殖できる、などが挙げられます。ほとんどの乳酸菌は胃液等への耐性が低く、生きたまま腸管へ到達する事ができません。胆汁酸および胃液の両方に耐性を持つ乳酸菌は稀であり、加えてヒトに有用な機能性を有するものは更に少ないのです。また、食品への応用を考慮した場合、乳酸や芳香性物質を多く生成することが重要となります。このような数々の性質を有する乳酸菌を見つけ出すため、当研究室では、食経験がある庄原市内の漬け物や和牛の乳汁から乳酸菌を分離・同定し、人工消化液耐性試験やチーズのスターターとしての特性試験を行っています。得られた結果をもとに、おいしくて健康増進に役立つ食品の創製に寄与していきたいと考えています。

地域連携 どんぐりカフェ in 三軒茶屋①

【3パート報告の第1回目】

学生有志による県大ブランドの地元特産品を使ったランチ&カフェ

去る5月18日、庄原市中本町の市役所通りの近くに2010年4月に新しくお目見えしたまちなか交流レストラン、「紅梅通り三軒茶屋」の長屋を貸し切って、庄原キャンパス女子学生の有志“県大ガールズ”による県大ブランド品を中心に地元特産品を使ったランチ&カフェを提供する“おもてなし”企画が行われました。

「炊き込みご飯だったら、どんぐりココロ豚の素材の味が活かせないよ。もっと考えないと」。

武藤徳男副学長をはじめとする先生方からブランド品などの活用や地域産物の利用に際し、このようなたくさんのアドバイスを参考にしながら彼女らは必死にランチメニューを考え、絞り出したそうです。

その結果、どんぐりココロ豚の和風みぞれパスタ、紫アスパラのサラダ、そして野菜コンソメスープのセットメニューを600円、30食限定でランチに出すことができました。また、カフェメニューにも、えごま茶や古代米を使ったかしわ餅、地元特産品である梅酒ケーキなども提供され、「どんぐりカフェ in 三軒茶屋」として県大共同開発品や地元特産品を使ったオリジナルミールを手軽に味わえる機会をつくることができました。



(次号に続く)

三原キャンパス

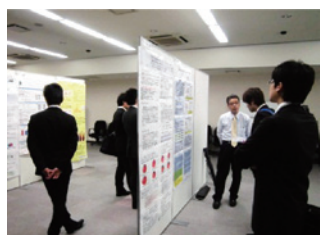
MIHARA CAMPUS

合同学会

第11回広島保健学会学術集会・
第15回広島保健福祉学会学術大会 合同学会



10月11日、広島大学霞キャンパスにおいて、第11回広島保健学会学術集会・第15回広島保健福祉学会学術大会合同学会が開催されました。本学保健福祉学部と広島大学医歯薬保健学研究院が合同でこの学会を開催するのは今年で4回目となります。



今回は、「災害復興に果たす保健学の役割」をテーマとして、東日本大震災や、昨年8月の広島市の土砂災害の復興の現場に携わっている4名のシンポジストとともに、保健学の視点から災害時にそれぞれが果たすべき役割について話し合われました。

また、特別講演としてオーストリアのザルツブルク大学リハビリテーション医療学部のAnton Wicker教授が招かれ、「スポーツ外傷の予防—特にスキー外傷のリハビリテーションの経験から—」をテーマとして講演されました。

一般演題においては保健・医療・福祉に関する研究分野から、口演6題、ポスター11題の発表が行われました。そのうち本学からは9題の演題が発表され、研究成果の発表とともに、活発な意見交換が行われました。本学の大学院生も4名が発表しました。日頃の研究成果を報告できる場として、この学会は大きな役割を果たしています。次回は、今秋に本学三原キャンパスで開催される予定です。

産学連携

〈信用金庫合同ビジネスフェア〉

11月26日に「第9回広島県信用金庫ビジネスフェア2014」が広島グリーンアリーナで開催されました。本学のブースで



は、庄原市の(株)和泉光和堂と共同開発した古代米かしわ餅やポリフェノール入りのクッキー、三原市のスワンベーカーリーと共同開発した「三原シュトーレン」などを販売しました。

また、保健福祉学部の3名の教員による「医療福祉機器参入促進セミナー」が開催されました。このセミナーは、企業の新たな医療・福祉分野参入のきっかけを創出することを目的として今回初めて開催され、約30社の企業が参加しました。はじめに3名の教員の研究内容の発表があり、教員の研究に興味を持った企業が個別にビジネスの提案を行いました。これからますます成長が期待される医療・福祉分野への参入を目指す企業とのつながりを作るよい機会となりました。なお、3名の教員の発表テーマは以下のとおりです。

コミュニケーション障害学科 教授 矢守 麻奈	広島産レモン果汁を活用した口腔ケア・嚥下訓練用具等の提案
理学療法学科 准教授 島谷 康司	バーチャルライトタッチによる転倒防止予防訓練用具の提案
コミュニケーション障害学科 講師 細川 淳嗣	言語障害者に対する双方向言語リハビリテーション指導システム



〈びんご産業支援コーディネーター大学訪問〉

「びんご産業支援コーディネーター養成講座」の一環として、三原市から大学訪問の依頼があり、12月17日にコーディネーター



14名が三原キャンパスを訪れました。この講座は、三原市および福山市が中心となって開講しており、備後圏域において、中小企業のかかえる様々な問題に対して企業と一緒に取り組む人材を養成するものです。研究室訪問や、産学官連携商品の実演を交えた説明を受け、参加者からは多くの質問が飛び交い、産学のつながりを深める良い機会となりました。

地域連携

〈健康情報番組 ～市民いきいき健康広場～〉

大学から三原市民に対して情報を発信し、地域に貢献することを目的として、三原市の広報番組「三原市チャンネル」の健康情報コーナー「市民いきいき健康広場」を三原テレビ放送㈱や三原市とともに制作しています。

三原テレビコミュニティチャンネル(デジタル11ch)

放送曜日	放送時間(15分間)
月・土・日	7:15~7:30, 12:15~12:30, 19:15~19:30, 20:15~20:30
火~金	7:15~7:30, 12:15~12:30, 19:15~19:30, 20:15~20:30, 23:15~23:30

過去に放送された番組のDVDは、三原キャンパスの図書館で鑑賞することができます。また、三原地域連携センターではDVDの貸し出しも行っていますので、ご興味のある方はぜひお越しください。

過去の放送内容(平成26年9月~平成27年2月)

平成26年	9月	ベビーマッサージ(後編) (看護学科 助手 伊藤 良子)
	10月	乳幼児期の子どもとメディア (看護学科 助教 鴨下 加代)
	11月	脳の活性化を促す脳トレーニング(前編) (看護学科 准教授 井上 誠)
	12月	脳の活性化を促す脳トレーニング(後編) (看護学科 准教授 宮本 奈美子)
平成27年	1月	住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために (Part1)高齢者相談センターを活用しよう (看護学科 助手 脇田 宣枝)
	2月	住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために (Part2)訪問看護を活用しよう (看護学科 講師 岡田 麻里)

研究紹介

自分のしたいことができる地域づくり

保健福祉学部作業療法学科 助教 高木 雅之

作業療法では、人は自分のしたいことをすることで、健康になれる、成長し続けられると考えられています。また、すべての人が自分のしたいことを通して地域に貢献すれば、地域自体が発展するという前提があります。

私はこの前提のもと、地域の住民の方がしたいことができる場所を増やす取り組みを行っています。その1つが、「ものづくり工房 作ら(さくら)」(以下:作ら)です。「作ら」は、住民の方と私が今年4月に発足させた団体で、月に2回、1回2時間(第2・4金曜日10時~12時)、本学三原キャンパスで活動をしています。

年齢、性別、障害の有無に関わらず、ものづくりに興味がある方は、誰でも活動に参加できます。現在は、毎回約30名の方が集まっています。参加者の年齢層は20~80代で、男性も女性もいます。参加者の中には、子連れのお母さんや障害のある方もいます。多様な参加者が一緒に作業をすることで、お互いに成長できます。

「作ら」では、作るものや作業種目は決まっておらず、自分の作りたいものを作れます。現在は、紙バンド手芸でハンドバック、陶芸でお皿、裁縫でトートバック、革細工で携帯ケース、布ぞうりなどが作られています。自分の作りたいものを作ると、ものづくりに熱中でき、出来たときの喜びも大きくなります。

「作ら」には、先生と生徒という関係はなく、参加者同士が助け合ってものを作ります。経験のあることは他の参加者にも教え、初めてのことは他の参加者から習います。「作ら」では、参加者一人一人がなくてはならない存在です。

参加者の方からは、「作ら」に参加するようになって、「心が明るく、前向きになった」、「自分の手で新しいものを作ることで自己成長できる」、「出来上がったものを使う喜びがある」、「できたものを人にあげて喜んでいただく嬉しい」といった感想が聞かれています。ものづくりに興味がある方は、ぜひご参加ください。



広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

地域連携

〈広島市南区〉

元宇品クリーンキャンペーン

平成26年2月に締結した「地域連携協力に関する協定」に基づき、「より良い地域社会の実現」をめざした連携事業の一環として、「元宇品クリーンキャンペーン」への参加及び学生と地域住民の意見交換会の開催」事業を行っています。本事業は、南区元宇品地区の町内会やアース・ミュージアム元宇品構想推進委員会と共同で実施しており、11月2日には、8名の学生が元宇品の国立公園区域内の一斉清掃活動に参加しました。また、不法投棄の現状やゴミの種類について調査・分析を行うと共に、地域住民代表との意見交換会に参加しました。



一斉清掃開会式の様子

調査の結果、産業廃棄物は比較的少なく、大量の生活ゴミが捨てられている実態が明らかになり、事業者向けを中心とした啓発活動を再検討する必要があることが示されました。1月24日に再度、現地調査を行い、この間のゴミの増加状況について検討し、対策を話しあいました。



意見交換&討論会の様子

〈もみじ銀行〉

包括的連携協力に関する協定の締結

10月31日、もみじ銀行と、相互に連携して地域の産学官連携を推進し、地域経済の発展に寄与することを目的とする、包括的連携協力に関する協定を締結しました。調印式はもみじ銀行本店において、野坂文雄頭取および中村健一学長をはじめとする関係者が臨席して執り行い、新聞社やテレビ局の取材も受けました。



調印式の様子



記者会見後の記念撮影

具体的な協力内容としては、本学の研究成果と銀行取引先企業とのマッチングや技術相談の紹介および対応等

があります。相互の地域情報の共有により、地域振興に連携して取り組むことをめざしています。

公開講座

「社会人のための英語再チャレンジ」

昨年度に引き続き、広島市立大学との連携公開講座「社会人のための英語再チャレンジ」（全5回）を開講しました。通訳訓練法を利用した英語学習法、日本語らしい訳文の作り方、発音のステップアップなどの内容で、定員の3倍を超える申し込みがあり、人気の高い講座となりました。

「シネマ広島めぐり」

今年度初めての試みとして、映画をテーマとする公開講座を9月に開講しました。映画と地域の関わりについて文化地理学・経済地理学の面から講義し、さらに、広島での映画ロケの誘致と支援に取り組む広島フィルム・コミッションの活動を紹介しました。「新しい視点で映画を考えることができた」、「理論的な話と現場の話とで、興味が尽きなかった」、「映画を作るのに、こんなにたくさんの努力があることに驚いた」などの感想が寄せられました。



「健康科学連続講座」

10月、健康科学科の栄養・食品科学分野、健康スポーツ科学分野の教員による連続講座「健やかな生活を営むヒント」（全5回）を開講しました。

テーマは、健康寿命をのばすための運動や、低栄養にならないための栄養管理のすすめ、食生活の安全と健康、減塩でもおいしい食事づくり、体内時計と栄養でした。受講者が学生アシスタントとともに調理実習を行った回もあり、なごやかに秋の食事を楽しみました。



研究紹介

運動時に効果的な栄養補給について

人間文化学部健康科学科 准教授 山岡（遠藤） 雅子

有酸素運動という言葉の通り、持久性運動を行うには、運動を行っている筋（活動筋）への酸素供給が必須です。酸素は血液によって運搬されるため、運動時には活動筋への血流量が増加します。この活動筋への選択的な血流増加は、内臓血流量の減少によって支えられます。一方で、食後には消化吸収のために内臓血流量（特に消化管の血流量）は増加します。このように我々の身体は、各組織の代謝需要に見合う酸素運搬を維持するために、必要な時に各組織へ適切に血流を配分します。

運動時には、エネルギー補給や脱水予防の観点から、スポーツドリンクがよく飲まれます。この時、体内へ糖や水分を吸収するために、消化管への血流増加が予想されますが、運動を支える筋の側からすると、それまで供給されていた血流量に不足が生じ、運動パフォーマンスが低下する可能性があります。私達は、運動時や栄養摂取時の活動筋や消化管への血流量を超音波法によって連続的に測定し、心臓から拍出される血液がどのように配分されるのか検討しています。また、近年、飲料や食事を経口摂取した後、その内容物が胃から十二指腸へ排出される過程を胃の超音波断層像を用いて推定する技術を確立しました。この方法を併用して、現在、運動時に胃からの排出が速く、さらに活動筋への血流量が減少しない糖質の種類や摂取のタイミング等について検討しています。

通信技術で通心を実現する

経営情報学部経営情報学科 講師 重安 哲也

携帯ゲーム機やスマートフォンなどに無線LANあるいはWi-Fiと呼ばれる通信機能が搭載されていることをご存知でしょうか。無線LANは皆さんの電子機器(子機)をネットワークに無線接続する便利な機能です。携帯電話会社のCMでLTEや4Gなどの単語もよく耳にしますが、同じ無線通信技術でも、LTEと無線LANは全く性質が異なります。LTEでは、子機は必ず携帯電話会社の大きな基地局に接続されます。当然、基地局では子機を集中管理し効率よく通信できますが、停電等により基地局に電力が供給されなければ、子機に故障が一切無くても通信はできなくなります。

つまり、LTEだけでは、大規模災害時には被災状況の通報や受信が困難となる恐れがあります。そこで、私は学生と一緒にスマートフォンに搭載されている無線LANの機能を使って被災情報を収集する被災情報システムの開発に取り組んでいます。簡単に説明すると、無線LANは基地局なしで子機同士が直接通信できるため、すれ違った子機同士が自律的に情報のバケツリレーを繰り返す事で、災害対策本部や避難所まで迅速に被災情報を伝達する事ができると考えています。迅速に被災情報を伝えれば、要救助地域や要救援物資の特定が格段に容易になるはずです。このことを信じ、私は、通信で心を通じる「通心」システムを必ず実現したいと思っています。



広島交響楽団特別講義

本学は広島交響楽団のキャンパスメンバーズ制度に加入しています。その特典の一つに、楽団員による特別講義があります。

今年度は12月15日に正田愛子さんが「ヴァイオリン奏者という仕事」のテーマで、演奏を交えてお話してくださいました。ヴァイオリン奏者の仕事の種類、オーケストラの日常、譜読みと弾き方の違いなど、話題は多岐にわたりました。また、ドイツ留学時の思い出にも触れ、20代の体験が人生の糧になることなど、学生の心に響く講義となりました。

講義終了後には、希望者がヴァイオリンを弾く体験コーナーもあり、学生がクラシック音楽を身近に感じる良い機会となりました。



県立広島大学研究成果発表・交流会の開催

10月8日、県立広島大学研究成果発表・交流会をサテライトキャンパスひろしまにて開催しました。本研究成果発表・交流会は、本学の広島、庄原、三原の3キャンパスで実施した地域貢献事業の成果の展示・紹介と、現在進行中の研究内容に関する紹介・解説の2つの目的をもって開催しました。表のとおり、これまでの本学の地域連携活動の成果として販売されている商品（食品等）の紹介を行う成果展示会と、本学教員の研究内容を紹介する学術講演を併行して開催する2部構成としました。



成果発表の様子



研究内容についての説明

地域との共同研究開発成果の展示・紹介		県立広島大学の研究内容の紹介・解説	
開発商品展示 ・ポリフェノール入りクッキー、古代米柏餅、柚子皮まんじゅう、三原シュトーレン、他多数	開発経緯の紹介 ・古代米ポリフェノール商品の開発、ジャムにビタミンCを安定的に配合する技術開発、他4件	「くらしと健康」 —高齢者の食事 (発表2件)	「話題のテクノロジー」 —ICTとデータ分析 (発表3件)
		「くらしと健康」 —水の安心安全 (発表2件)	「話題のテクノロジー」 —食品の分析 (発表3件)

当日は、発表・展示内容に関連のある企業や各種支援団体、官公庁等をはじめ、県内の多くの企業からの参加があり、一定のPR成果を得られたと考えています。総来場者数は54名、研究成果展示会場の延べ参加者数が95名となり、特に成果展示会場は多くの来場者で賑わい、好評をいただきました。

このような研究成果発表・交流会の開催は、今回が初めてですが、開催の結果を受けて、来年度以降の事業計画に反映していく予定です。



開発商品展示の様子

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので、ご活用ください。地域連携センターの活動についても、あわせてご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

編集後記

センター報第20号をお届けします。本号では、トライアスロンさぎしま大会での学生ボランティア活動をはじめ、各キャンパスで開催された学術講演会、公開講座、地域連携事業等に関する記事を掲載しております。

これからも地域に開かれた大学として様々な事業に取り組んでいきますので、引き続きご支援とご協力をお願いします。(M)

編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
電話(082)251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話(0824)74-1704 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター [本号編集担当]

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号
電話(0848)60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp